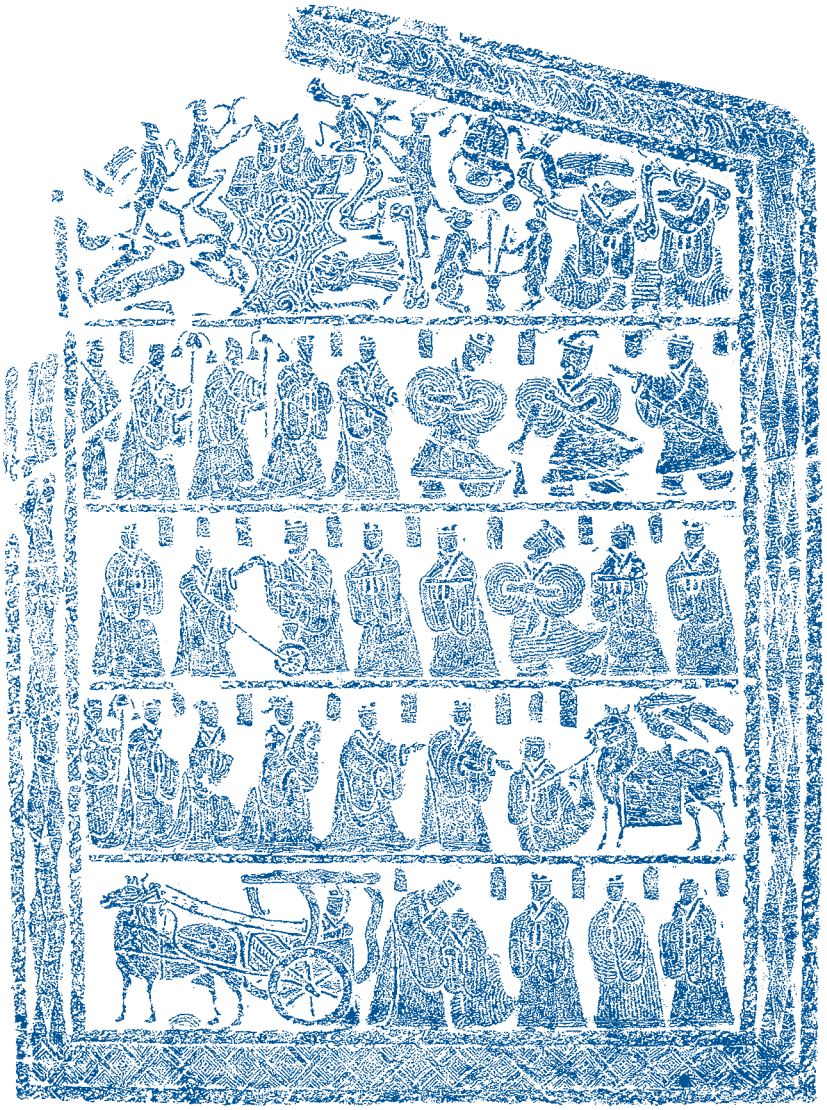
學生書壇

（学生書壇）

令和４年
（2022年）
2
月号

幼　児・小学生
中学生・高校生　のための書道誌



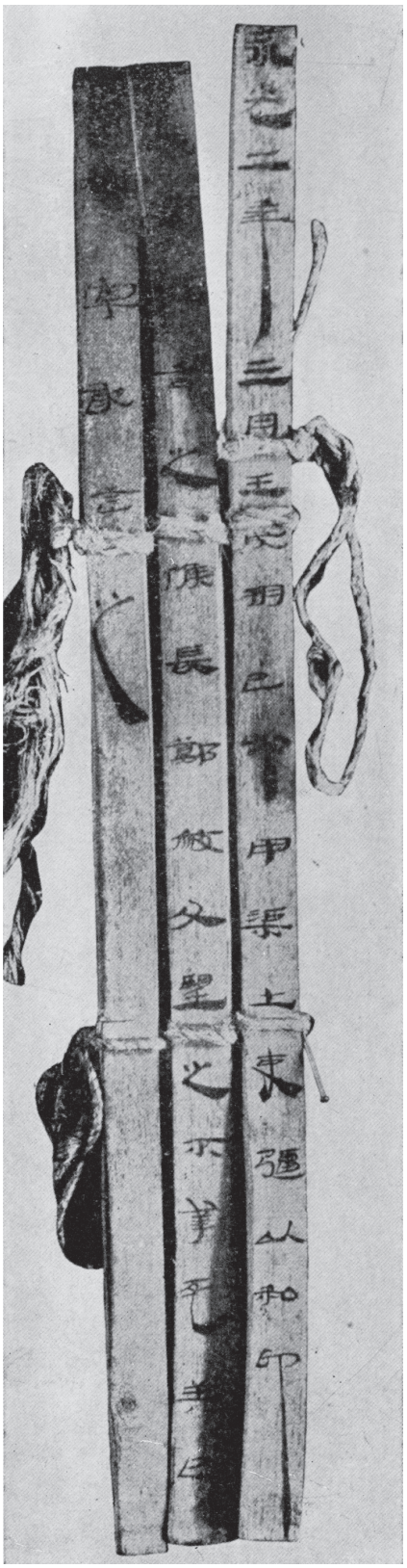
公益財団法人　書壇院

公益財団法人書壇院は、書道の研究、教育、普及によって、書道芸術を通し、人格を高めることを目指しています。

昭和二十五年六月八日（第三種郵便物認可）
令和四年一月十五日印刷納本
令和四年一月二十五日発　行
（毎月一回二十五日発行）
第七十三巻
第二号
第八六二号

古典への招待

漢簡牘



永光二年三月壬戌朔己卯甲渠士吏彊以私印　行使事敢言之候長鄭赦及望之不幸死癸巳　予被寧敢言之

紙が普及するまで、書物や文書などの記録には竹や木を薄く細長い形に切った竹簡・木牘が用いられていました。（日本では、あわせて木簡とも呼ばれます。）

大きさは様々ですが、中国漢代（紀元前202年―紀元後220年）のものでは長さ20～30㎝、幅1～2㎝、厚さは数㎜のものが多く発見されています。

文字は一般に隷書で書かれ、筆を用いて墨で書き、消す時は小刀で削りとりました。

竹簡や木牘は、なめし皮や麻の紐で編んでとじ、簀の子状に巻いて保存しました。これを冊と呼びます。現代でも本を数える時に一巻・二巻、一冊・二冊、というのはここから来ています。

※写真は居延（内蒙古自治区）で発見されたものです。永光二年とあるのは紀元前42年のことです。

鑑賞作品

「徳」―九成宮醴泉銘―

九成宮醴泉銘は、欧陽詢（五五七―六四一）が七十六才の時の書です。ゆるぎなく、整然として完成された楷書と言われています。

この「徳」も間のとり方が綿密ですね。点画の構成や方向をよく見きわめ、バランス良く書いてみましょう。

令和四年 学生書壇 二月号 目次

古典への招待……表2

鑑賞作品……1

競書課題

毛筆部　競書課題……2
硬筆部　競書課題……6
蘭亭序……8
高野切第三種……8
特待生紹介……8

第八六二回

優秀作品・批評……9
成績発表……16

課題予告……24
バーコード券発行案内……26
出品のしかた……27
出品票……28
お知らせ……表3

競書課題（2月15日締切）瀧澤橙雪先生書

毛筆部

※小学生の級位は硬筆部と同じです。
※出品のしかたは27頁をご覧下さい。

幼児

小学一年

小学二年

一ナ大犬

小学三年

ノ入今会会

競書課題（2月15日締切）横山菁絢先生書

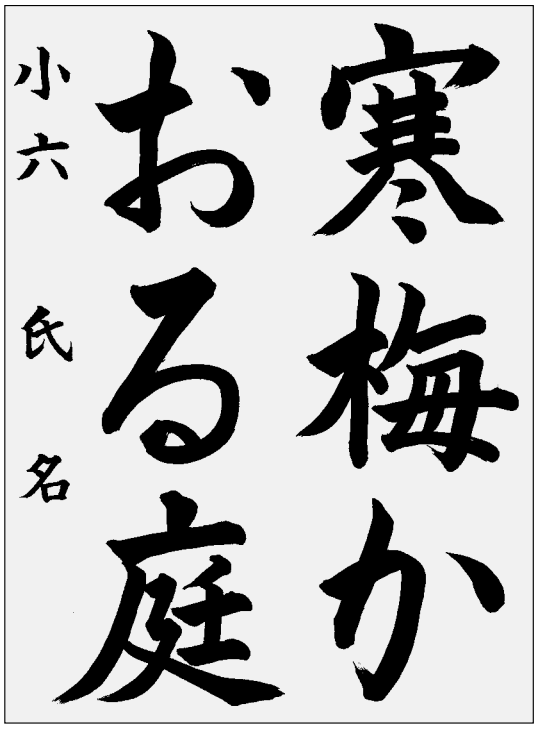
小学四年

弓弓弛弾強強

小学五年

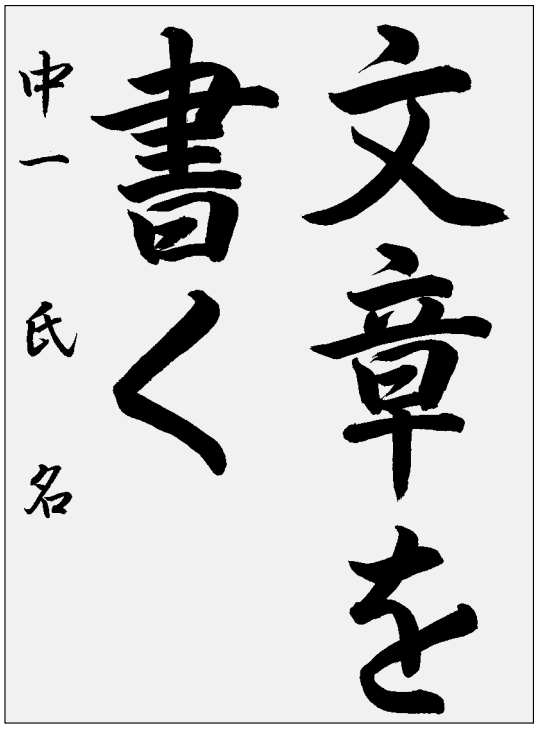
ㄱ尸尸屋屋屋屋

小学六年



宀宀宀宝寒寒

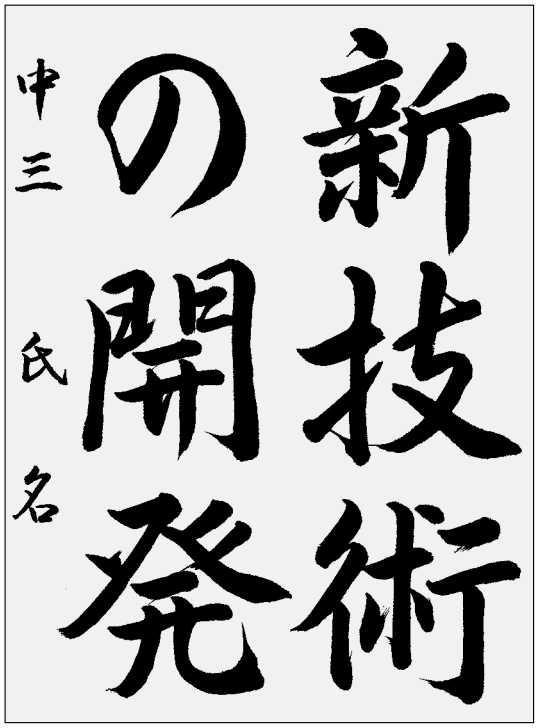
中学一年 ―行書―



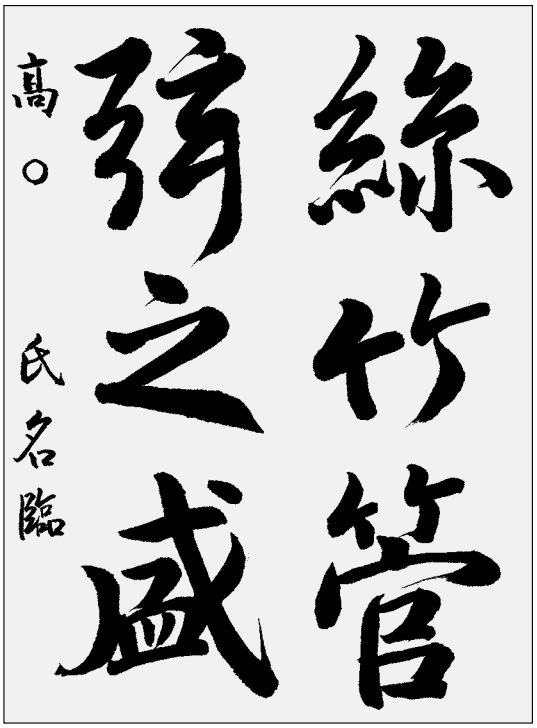
競書課題（2月15日締切）片野錦秋先生書

中学二年 ―行書―

中学三年 ―行書―



高校 ―臨書―



漢字 課題説明

高校

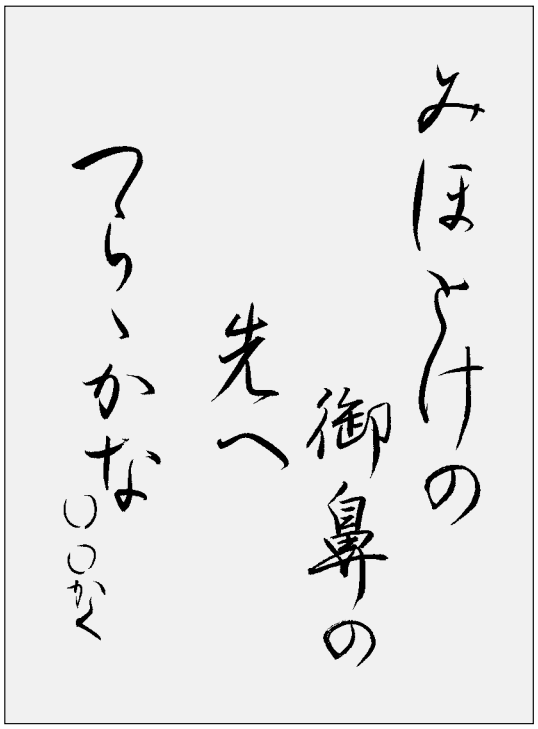
蘭亭序（らんていじょ） 絲竹管弦之盛

永和九年（三五三）会稽山陰の蘭亭に名士四一人が集い、雅宴を催しました。蘭亭序は、その時に詠まれた詩を集めて、王羲之（おうぎし）が書いた詩集の序文です。

王羲之の真蹟は存在しませんが、多くの臨摹本や拓本があります。

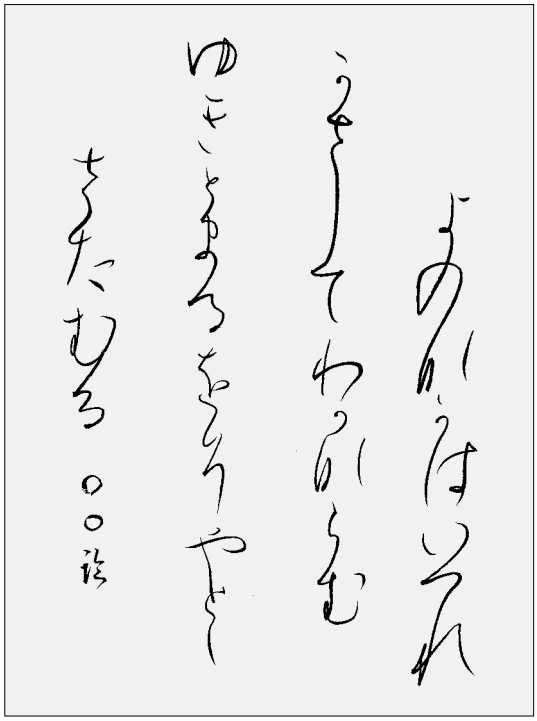
競書課題（2月15日締切）

かな　中学



矢崎美咲先生書

かな　高校　高野切第三種（8頁参照）



酒井真波先生臨

かな　課題釈文・解説

中学

御仏の　御鼻の先へ　つららかな

（小林一茶）

皆様「つらら」を見たり、さわったりしたことがありますか。外にいるお地蔵様でしょうか、鼻先につららがあるとは、よく見ていておもしろいですね。

四行に書きます。「とけ」「つら」の連綿は二字目の第一画まで続けて書きましょう。

高校

よのなかは　いづれかさして　わがならむ
ゆきどまるをぞ　やどゝさだむる

〔解釈〕

はかない現世では、いったいどこがわが家と指定できよう。足の行きとまる所を、私の住むべき宿と定めることである。

「よのな」よの一筆目と二筆目は離れています。のからなへの連綿線は長くなっています。なの最終筆は細い線ながら中程がふっくらしていますね。

競書課題（2月15日締切）町田雨篁先生書

硬筆部

幼児

まどから
みえる
ゆきげしき
さいなまえ

小学一年

にわに大きなゆ
きだるま、赤い目
のゆきうさぎ。
小一なまえ

小学二年

「おには外、ふ
くは内」大きな声
でまめをまいた。
小二なまえ

小学三年

港には、白い大
きな外国の客船が
とまっています。
小三氏名

※小学生の級位は毛筆部と同じです。
※えんぴつで書いて下さい。出品のしかたは27頁をご覧下さい。

※指定用紙〔500枚二四〇〇円〕は榮豊齋で購入して下さい。
※用紙をコピーする場合は原寸〔100%〕で、紙の大きさはA5版〔タテ21.0cm×ヨコ14.8cm〕になるようにして下さい。（A5サイズとはA4サイズの半分です）

競書課題（2月15日締切）近藤香照先生書

小学四年

「必要は発明の母」という有名なことわざがある。

小四　氏名

小学五年

文章の構成を工夫して、内容を分かりやすく書いた。

小五　氏名

小学六年

戦争の話を聞いて、平和のありがたさを痛感した。

小六　氏名

中学・高校（段・級はつきません）―行書―

春浅い庭先に、白い梅の花が咲き始め、ほのかな香気があたり一面に漂っている。

氏名

（細字用サインペン使用）学年を入れましょう（例　中一・高二）。